

短梢せん定仕上げせん定講習会

JA 中野市園芸課

※ 短梢剪定本剪定重要事項 ※

- ・ 水上がり前には剪定を終了する。（3 月上旬中には終わらせる）
- ・ 剪定時はしっかりした 1 芽を残して切る。（よくみて確認）
- ・ 犠牲芽剪定をする。（芽の節の部分で切る）
- ・ 今年は、凍害と乾燥が心配 → 百円玉以上の大きさには塗布剤を使用する。

1. 剪定前に樹の確認

① 樹全体を見て枝の状態を確認する。

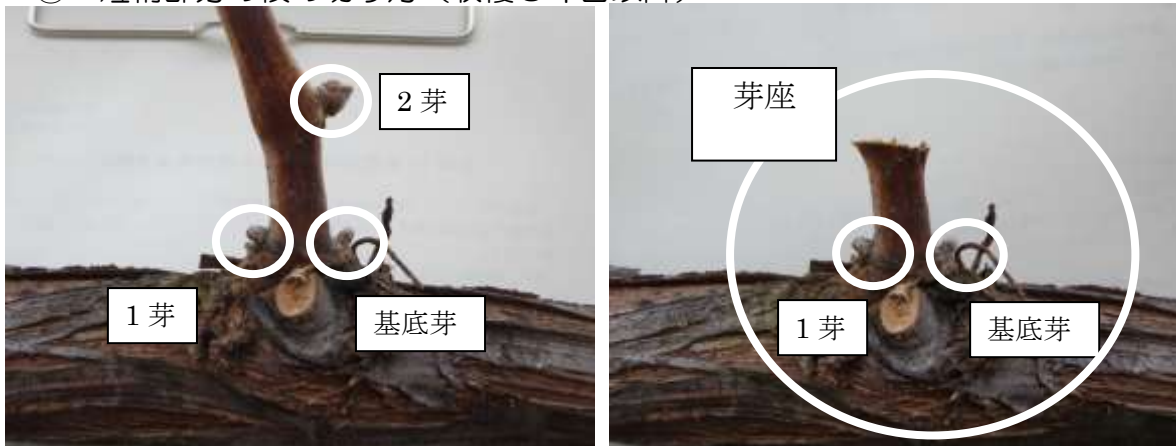
- ・ 樹勢の確認（結果枝の太さ等）
- ・ 芽がとんでいる所はないか？
- ・ 樹体被害はないか？（病害虫等）

2. 剪定方法

① 芽の間隔が空いていないか確認する。

- ・ 芽の間隔が空いている所は隣の枝を主枝に添わせて誘引し、空間を埋める。
- ・ 1 芽～2 芽空いている場合は、隣の芽から出た枝を誘引して、空間を埋める。

② 短梢部分の枝の切り方（収穫 3 年目以降）



2 芽残す場合

1 芽剪定+基底芽

芽の大きさは米粒以上のものを 1 芽と数える。

※2 年目の枝は基底芽が発芽しない場合があるのでしっかりとした 2 芽を残す。

※2 芽せん定の場合、芽座が年々主枝から遠くならないように注意する

※せん定時期は厳寒期以降（2 月中旬以降）がよい。水上がり前の場合、切り口を保護する

③ 2 芽せん定で結果枝が 2 本残っている場合

主枝に一番近い芽まで切り返すのが基本。

1 芽座から 2 本発生させると樹の先端が弱くなるため、若木の時期は 1 芽座から 2 本は発生させない。枝の径は 8mm 以上の枝を残す

④ 延長枝（伸ばしていく先端の枝）の剪定

- ・延長枝には副梢を残さず、15～20 芽程度で整理をすると良い。（樹勢によって調整）
- ・延長枝は概ね 10mm の太さのところで切る。
- ・芽キズ（3/10 頃水上がり直前）、発芽促進剤塗布（水上がり後）はしっかり行う。

⑤ その他の注意

若木（特に植え付け 2 年目まで）は基幹部に近い枝を出し過ぎると延長枝が負けてしまうので、基幹部周辺には強い枝を発生させない。

⑥ 各品種の短梢剪定について

・シャインマスカット

短梢部の剪定については房数確保（花の確保）や節間が空くため、空間の空いている場所は基本的に 2 芽剪定実施する。多く発芽してしまった場合は芽かきを実施する。（芽かきの時期は展葉 2～3 枚ごろ）

・ナガノパープル

べと病、晩腐病に弱いため、あまり棚面が暗くならないように注意する。

短梢部の剪定時は 1 芽座に芽をおきすぎないように注意。

誘引の際に新梢が欠けやすいので、誘引線は主枝から 15cm くらいの位置に置いておく。

・ピオーネ

ナガノパープル同様べと病、晩腐病に弱いため、棚面を混ませないように注意。

発芽しない芽などもあるため、芽数はある程度残し、芽がとばないようにする。

3. 近年見られる弱樹勢について

近年シャインマスカットを中心に弱樹勢樹が散見されます。

原因はいろいろ考えられますが、以下の点に注意して下さい。

- ① 苗木はあまり伸ばさずゆっくりと育てる。（剪定、施肥注意）
- ② 弱樹勢樹は剪定の際にあまり樹冠を広げず、根域を広げるように努める。
根が伸びるよう完熟堆肥等を畑に入れて、根域が広がるように土壌改良に努める。
（根が伸びるよう、根の先端めがけて広い範囲で施用する）
- ④ 着果過多に注意する。
- ⑤ 夏場の摘心を実施し、次年度の芽の充実、結果枝の樹勢バランス均一化。

4. その他

- ① 休眠期（春先）のデラン・ベンレート散布をしっかりとやる。

※次回特報で散布時期等お知らせします。

- ② 次回芽キズ講習会を 3 月上旬に実施します。